

利別川に新水路

統内新水路の完成によって現在の十勝川になりました。それまでの旧十勝川は利別川の下流部に。つづいて、利別川を池田市街地付近から新たな十勝川に直線的に繋げたのが川合新水路です。

工事は統内新水路の完成につづいて昭和12年から開始されましたが、戦争の激化により中断し、通水は19年後となりました。

当時の工法は、42tエキスカベーターによる掘削積込、20t機関車運搬で左右岸同時移動され、右岸掘削土は利別築堤に、左岸掘削土は川合築堤にそれぞれ利用盛土されました。

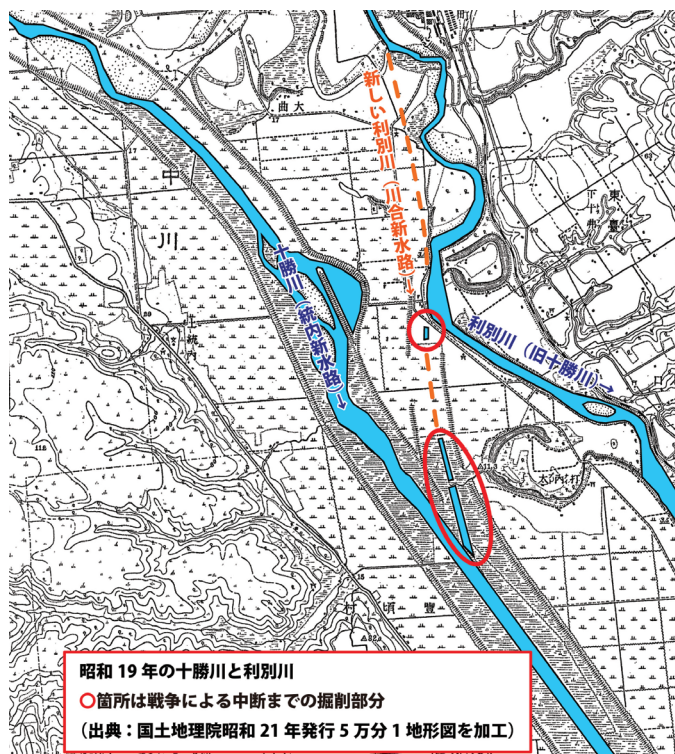


川合新水路（昭和31年通水）

新水路の掘削工事が進むにつれて、機関車が渡る橋が必要となり木橋を架設（鉄道橋）。その後、洪水によって一部決壊して応急処置的に桁橋が架設されました。

川合新水路の完成によって、あらためて交通路確保が必要となり、関係町村や地域住民との協議の結果、計画されたのが「川合橋」（写真＝右上）でした。

計画当時は、陸の孤島を避けるための応急的な橋と関係者は考えていたとのことですが、取り壊しまでの21年もの間、地域住民に愛され続け、昭和52年竣工の川合大橋に役目を譲りました。



昭和19年の十勝川と利別川

○箇所は戦争による中断までの掘削部分

（出典：国土地理院昭和21年発行5万分1地形図を加工）

昭和19年の十勝川と利別川の位置関係



昭和31年に完成した川合橋（十勝川写真で綴る変遷）



川合橋の洪水による潜水状況 昭和48年9月（茂岩・池田河川事業所史）

洪水後、川合橋にかかった流木等を取り除く地域住民
昭和48年9月（茂岩・池田河川事業所史）



もぐり橋？ 潜水橋？ 幻の橋？

川合橋は「もぐり橋」「潜水橋」とも呼ばれていました。増水時には水面下にもぐってしまうからです（写真＝上）。上流から大量の流木やゴミが橋桁にひっかかり、地域住民総出で橋面の清掃を行ったり、冬季は風が強く凍結することもあるため、地元小学生的のために氷を除去するなど、地域に支えられていた橋でした。

おもひで「十勝川治水史」（昭和48年発行）より

（前略）

川合橋について知る人が少ないと思う。

利別川と十勝川の合流点、つまり新水路の呑み口に本来ならば附帯工事として堤々間の橋梁を必要とするのだが木橋では管理者たる池田町が困るし、永久橋では金がかかるし窮余の策として低水路のみのエレベーションの極めて低い延長のみじかいコンクリートの桁橋を計画した。水位が高くなると必然的に水面下に没するのである。吾々としてははじめての試みで之を「もぐり橋」と称した。事実洪水のたびごとににもぐっているのである。洪水を桁下に無事流下させると言う橋梁技術の通念から言えば誠に不合理極まるアイデアであった（中略）

之を別名「幻の橋」と呼称している。何とはなしに出来てしまったと云うこともぐったり現れたりすることと遠い将来は本式に架け換えられるべき運命にあるからである。

当時の帯広開発建設部技術長
故・森田 義育さんの寄稿